



今日も「心のコップ」に 水がたまっているな

🌸 あのと私が一番欲しかったのは「時間」

私の20代後半から30代半ばまでは、仕事と家事・育児に追われる毎日でした。特に、2人目の育児休暇明け（ちなみに当時の育児は1年間でした）は、大げさではなく毎日が戦争のようでした。

朝は、子どもたちを追い立てながらの出勤。放課後は保育園のお迎え時間を気にしながら授業や行事の準備、生徒指導に校務分掌……。すべてが回らず、毎日仕事は持ち帰り。帰宅しても家事の山。子の寝かしつけと同時に自分も寝てしまい、よれよれになりながら夜中に食器を洗ったり、仕事をしたりしていました。

一方、同年代の同僚たちは、じっくり濃密に授業準備をしています。校務分掌もテキパキこなし、休日には研修会に出かけていました。毎日家事と育児でアップアップ、教師としてのスキルなんてまったく磨けない自分との大きな差を感じていました。

そんな時間のない毎日を過ごした私でしたが、いつしか「仕事を効率的に行う」という技を手に入れていました。プリント1枚配付するのでも、どうすると無駄がないかを考えて動くようになっていたのです。「なんとなく」行うのではなく、たとえ1秒であっても時間を無駄にしないという意識が身についていたのです。

これは、あの育児期間があったからこそだと思います。少しでも多く子どもとの時間を確保したい、少しでも楽をして家事を終

えたい、少しでも…、という思いの連続が、自ずと「時短」を意識させ、効率的に働く技を身につけさせたのだと思います。

🌸 「心のコップ」のお話

誰しも心にコップを1つ持っている。コップには、その人が努力するたびに少しずつ水がたまっていく。コップは陶製で外からどのくらい水がたまったのかが見えないから、「こんなに努力しているけど、本当に自分は成長しているのか」「努力したって無駄ではないか」と思ってしまう……。

成長って、ゆっくりで、目に見えないものだから不安になるのですね。でも、見えないけれど、努力したことはちゃんとコップにたまっている。腐らず努力し続けると、いつか必ずコップは努力で満杯になり、あふれ出す。そのとき初めて「ああ、自分は成長したのだ」とわかる。そして、コップは一回り大きくなり、またちゃんと水がたまるようになる。

この「心のコップ」のお話は、山口県の福山憲市先生から教わりました。大変なときは、私はいつもこのお話を思い出します。

🌸 時間を手放したと思っていたけれど、たまっていた「水」

育児期間は本当に大変で、毎日を「こなす」のが精一杯でした。自分が努力しているなんて意識はまるでありませんでしたが、あの大変だった日々が、自ずと私にたくさんの力を授けてくれていたのだと今はわかります。

大変に思えることは、必ず力量形成につながっている。それは心のコップにたまる水のように、見えないけれど、いつかちゃんとあふれ出すのだと思います。

(宇野弘恵)